やぶなべ

青森県立青森高等学校生物部 発行

誌　　名	やぶなべ
号/発行年/頁	2 / 1956 / 23
タイトル	青森市に於けるツマグロキチョウ･キチョウ
著　者　名	室谷洋司

自然を見つめる やぶなべ会（青森）

青森市に於けるツマグロキチョウ、キチョウ

室谷洋司

筆者は9月29、30日の本校文化祭生物展に、青森市の注目すべき蝶と題して数種の標本を陳列し、説明を加えて見たが、ここに単なる参考資料としてその中の2種を引き出して見よう。

尚、これ等の詳細については近い将来に「青森市の蝶」を発行し、又新昆虫「ムシペン」にも発表する積りである。

◎ ツマグロキチョウ Eurema laeta bethesba

この記録は1956年9月1日に源をたどることができる。

その頃、我が昆虫グループは酸ケ湯キャンプの日であったが、大岳登山の道で青森市野脇中武田昭示君の口から発したのである。

その後、本校文化祭にて、その標本を発見し、更に10月4日の野脇中文化祭で、それを言求したのである。この記録は確実と筆者は見ているが ---。

1♂(秋型) 採集者 武田 昭示

date 1956年、8月30日(3時頃) 薄曇り、無風

採集地 浪館、三内方面

飛翔は弱く、3m位上方から下降し、1m内外の黄白色の草花(種不明)に静止したものを採集したそうである。個体は前記の如く典型的な秋型であるが、前翅前角、外縁、後翅外縁がそれぞれ破損して、採集日が8月下旬である為、今少し調査する必要があると思う。採地浪館は、次にのべるキチョウも少なからず産し、その蝶相には興味が持たれる。(他に石川中生徒も採集したと聞えているが、今回はそれに触れない。)

◎ キチョウ Eurema hecabe

この蝶は昨年夏大谷の記録を皮切りにつぎつぎ採集された。

春型の採集されない限り定住は確認出来ないが、その数は相当にのぼっている。

採集地 大谷、浪館

1955. 8. 10. 1♂(夏型) 8. 24. 1♀(〃), 8. 27. 3♂♂(〃), 8.28.4♂♂1♀(〃), 8. 31. 1♀(〃), 9. 中旬 3♂♂1♀(不明), 1956.11.1.1♀(秋型), 他10数頭、大谷に於けるキチョウは荒地帯に発生し、地上すれすれに飛翔せるものを多く見た。

生活史について去る11月1日♀蝶の後を(産卵をつきとめる為)追って見たが不可能で、その域に達していない。

翌32年度は春型発見とその生活史を目的に全力を尽くす積りである。

(筆者は2年)

正　誤　表

原本に「正誤表」が付属している場合、該当部分を以下に転記しています。「行」は、原則としてタイトル行なども含む上からの行数です。（「u」が付く場合は下からの行数です。）

頁	行	誤	正
23	13	1♂　（秋型）	1♀　（秋型）